

地域の取り組み重要

東京で「認知症予防の日記念式典」
学会の浦上理事長ら呼びかけ



トークライブで認知症予防について語り合う
徳光さん(左)と浦上理事長＝16日、都内

日本認知症予防学会(浦上克哉理事長)は16日、東京で「認知症予防の日記念式典」を開き、講演や

トークライブを通じて認知症予防への理解を呼びかけた。

講演では、浦上理事長が「新たなステージを迎えた認知症予防に期待されること」と題し、アルツハイマー病の新薬「レカネマブ」の承認によって新たに治療対象となった軽度認知障害(MCI)の診断や、「とっとり方式認知症予防プログラム」など地域での予防の取り組みの重要性を強調。 「発症予防から早期発見・治療、進行防止まで、切れ目のない予防で共生社会の実現を」と説いた。

トークライブには、同学

会の認知症予防大使を務めるフリーアナウンサーの徳光夫さんが、少女時代の記憶を生き生きと語る妻のエピソードを例に「こちらから積極的に質問することで、相手が喜んで語る機会を多くつくるのが大切」と会話の心得を伝授。浦上理事長が「楽しい会話は認知症予防にも有効」と解説した。

認知症予防の日(6月14日)は、アルツハイマー病を発見したアルツハイマー博士の誕生日にちなみ、同学会が制定した。

(今井理恵子)